

ベナン月報(2014年2月)

主な出来事

【内政】

●3日, 10日, 及び24日, 公務員ストライキに関し, 政府代表と組合代表が交渉を実施したものの, いずれも交渉は決裂した。

【外政】

●20日及び21日, ファン・ロンパイ(M.Herman VAN ROMPUY)欧州理事会議長が, 西アフリカ歴訪の一環としてベナンを訪問した。

【経済】

●1月30日, 日本の支援を受けて UNDP がバニコアラで実施するミレニアム・ヴィレッジ・プロジェクトの第1サブ・フェーズが終了し, 塚原駐ベナン日本大使及びドウ・スザ(M.Marcel de SOUZA)開発・経済分析・未来計画大臣が評価視察を行った。

●7日, 2013—2014年の綿花セクターにおける混乱を鎮静化する目的で, ビアン(M.Jonas GBIAN)経済・財務大臣及びエリマ(M.Denis ALI YERIMA)国防大臣がボルグ(Borgue)県を訪問し, 生産者らと意見交換を行った。ビアン大臣は, 生産された綿花が円滑に綿繰りされるよう必要措置を講じる旨約束した。

※下記内容は, La Nation 紙, Le Matinal 紙, L' Evénement Précis 紙, La Nouvelle Tribune 紙及び L' Autre Quotidien 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- ・ 1日, パラク(Parakou)内陸港職員が, 同僚の不当解雇に抗議し, また, 労働環境の改善を求めてストライキを敢行した。
- ・ 2日, ダッサ・ズメ(Dassa-Zoumè)において墓を荒らして, 死体の一部を盗もうとした窃盗団が地元警察に逮捕された。
- ・ 3日, 10日, 及び24日, 公務員ストライキに関し, 政府代表と組合代表が交渉を実施したものの, いずれも交渉は決裂した。組合側は, 民主的自由の尊重, 不正(経済・財務省)公務員試験の取消し, アトランティック・リトラル県知事及びコトヌ中央警察署長の解任, 本年1月及び過去の給与差引額の返金, 及び給与改善を要求している。28日, ヤイ大統領は, 本年1月の給与差引額の返金に応じる旨発表した。しかし29日, 労働組合側は, 2012年に実施したストライキの際の給料差引額の返金及びアトランティック・リトラル県知事及びコトヌ中央警察署長の解任を, 引き続き, ストライキ中止の条件とする旨決定した。
- ・ 3日, ベナン司法官全国同盟(UNAMAB: Union Nationale des Magistrats du Bénin)は, 同同盟がかねてより求めていた司法官の安全確保体制の整備, 及び2011年及び2013年の人事異動発令の訂正が遅々として実現されない旨政府及び司法官高等評議会に対し訴え, 同日より72時間のストライキを敢行した。
- ・ 8日及び9日, 地方選挙実施に備え, 投票所で働く LEPI 地方委員たちへの研修が各地方村

落で実施された。

- ・ 17日, チャウル(Tchaourou)で大麻の密売をしていたインド人が逮捕された。
- ・ 24日, カリママ(Karimama)県でイスラム相互扶助人道機関(OHEI:Organisation Humanitaire pour l'entraide Islamique)が, モスク, 及びアラビア語及びフランス語学校からなるイスラムセンターを建設し, バコ(M.Naissou BAKO-ARIFARI)外務・アフリカ統合・仏語圏・在外ベナン人大臣が開所式に出席した。
- ・ 26日, ポルト・ノヴォ(Porte-Novo)において児童人身売買の容疑で5人の男が逮捕された。
- ・ 27日, 国民議会はベナン・レバノン投資保護促進相互協定に関し, 特に近年増加傾向にあるレバノン人のベナン人に対する蛮行を助長する可能性があるとして, 批准を否決した。

【外政】

- ・ 20日及び21日, ファン・ロンパイ(M.Herman VAN ROMPUY)欧州理事会議長が, 西アフリカ歴訪の一環としてベナンを訪問した。同議長はヤイ大統領と共に, ベナン及びEUの政治・経済パートナーシップ, 西アフリカ地域情勢, 及びEU・西アフリカ経済連携協定について意見交換を行った他, 西アフリカパワー・プール情報・調整センターの定礎式に出席した。

【経済】

- ・ 1月以降, バニコアラ(Banikoala)の綿花綿繰り工場が操業不能に陥っている。理由は, 収穫地から綿繰り工場までの道路が劣悪な状態にあり綿花の運搬に支障を来していること, また, 綿繰り工場において綿花の梱包用品等の物資が不足していること等である由。
- ・ 1月30日, 日本の支援を受けてUNDPがバニコアラで実施するミレニアム・ヴィレッジ・プロジェクトの第1サブ・フェーズが終了し, 塚原駐ベナン日本大使及びドウ・スザ(M.Marcel de SOUZA)開発・経済分析・未来計画大臣が評価視察を行った。
- ・ 1月31日, 仏ボロレ(Bolloré)グループのニグラ(M.Venance GNINGLA)ベナン支社長がヤイ大統領と会談し, 同社が「コトヌ・パラク間鉄道再整備及びパラク・ニアメ間鉄道敷設計画」をこの4月に開始する予定である旨述べた。
- ・ 1日及び13日, ナイジェリアの複合企業ダンゴート(Dangote)・グループのダンゴート(M.Aliko DANGOTE)社長がベナンを訪問し, ヤイ大統領とともに同社がベナンで建設を予定している200メガワット規模の火力発電所及びセメント工場につき, 意見交換を行った。
- ・ 1日, コトヌで政府によるマイクロクレジット・プログラムの集会が開催された。同集会で, ヤイ大統領は, 従来一人当たり3万FCFAであった貸付額を5万FCFAに増額する旨発表した。2007年に開始した同プログラムの貸付額総額は710億FCFAに上る。
- ・ 2日, ヤイ大統領は, バンテ(Banté)のカシューナッツ加工工場の開所式に出席した。1996年に1万トンであったベナンのカシューナッツ輸出は, 2008年には, 約11万6千トンに伸び, 今日では, 全輸出の約8%, 農業輸出の24.8%を占める。
- ・ 4日, 世銀の支援を受けて, コトヌ市でフィファジ(Fifadji)橋の改修及び雨水排水施設が建設

されることになり、ヤイ大統領とフルモンド(M.Oivier FREMOND)世銀ベナン事務所代表が工事の開始式を実施した。総事業費は、94億 FCFA に上る。

- ・ 7日、ロンドンに拠点を置くエネルギー関連企業 Gasol 社のクーパー(M.Ethelbert COOPER)代表がベナンを訪問し、ヤイ大統領とベナンにおけるガス生産の可能性につき意見交換を行った。
- ・ 同日、2013—2014年の綿花セクターにおける混乱を鎮静化する目的で、ビアン(M.Jonas GBIAN)経済・財務大臣及びエリマ(M.Denis ALI YERIMA)国防大臣がボルグ(Borgue)県を訪問し、生産者らと意見交換を行った。ビアン大臣は、生産された綿花が円滑に綿繰りされるよう必要措置を講じる旨約束した。
- ・ 11日、世銀が栄養改善分野で140億 FCFA の融資を行うことが決定し、フルモンド世銀ベナン事務所代表及びビアン経済・財務相が署名式を実施した。
- ・ 同日、ベナン統計局が第4回保健人口調査(2011年—2012年)の結果を発表した。「14%の世帯が一日30分以上を水汲みに費やしている」、及び「66%の世帯が衛生的なトイレを有していない」等の結果が公表された。
- ・ 12日、ヤイ大統領は、トルコの Yildirim Holding Inc のイルディリム(M.Robert Yuksel YILDIRIM)代表と会談した。同氏は、ベナンにおける火力発電所建設やセメポジ(Sèmè-Kpodji)における肥料製造工場建設等複数の投資案件に興味を示した。
- ・ 27日、平成25年度対ベナン共和国草の根・人間の安全保障無償資金協力「ヘカメ中学校整備計画」の署名式が実施された。
- ・ 同日、JICA ベナン支所が保健分野における活動報告会を実施した。
- ・ 同日、コトヌにおいて ECOWAS 水産会議が開催され、西アフリカ地域の専門家が出席した。同会議では、西アフリカ地域における漁獲高を増加させていく旨合意された。

(了)